令和七年度

中学校入学試験問題　国語

第二回（二月二日）

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項（じこう）をよく読んでおきましょう。

一、問題は33ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。

二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。

三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。

四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

一　次の文章を読んで、後の1～11の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

五時間目のロングホームルームが始まった。

辛島先生は最初だけ教卓で、

「この時間は、前回から持ち越した、体育祭のスローガン決めをするので、荻野くんと佐々木さんに進行をお願いします」

と話すと、オブザーバーに徹するように、教室の後ろのロッカーのところまで下がった。優希は誠を振り返って目を合わせると、同時に席を立って教卓に向かって歩いた。

両こぶしに力を込めると、優希は口火を切った。

「では、体育祭のスローガン決めを行いたいと思います。前回の話し合いでは『必勝』と『心ひとつに』という案が出ましたが、なにか新しいアイディアを考えてきてくれた人は、いますか？」

優希の問いかけに、クラスのみんなは目をそらすように、机の上を見たり首をひねったりしている。

「だーかーらー」

流星の大声が響く。

「田中くん、発言は挙手願います」

優希がたしなめると、流星はだるそうに「は～い」と手を挙げた。

「田中くん、お願いします」

誠は①【　　】のように押し黙ったままで、ひとことも口を開かない。

「前のときも言ったけどさ、このふたつを合体させてさ、『心ひとつに必勝』でよくね？　さっき全員リレーの練習で一位になったの、超盛り上がったじゃん。心ひとつに優勝目指してさ、感動したわけじゃん」

流星が言うと、野球部員だけでなく、瞳子や他何人かが、小さくうなずいている。でも、おおかたの生徒は反応がなく、賛成なのか反対なのか分からない。

「ちょっといい案、思いついちゃった」

優希がうながすと、流星が続けた。

「いや、スローガンのことじゃなくて、全員リレー。やっぱ足の遅いやつは、走りたくないやつもいるわけじゃん。だから当日そのときだけ、そいつには急に体調不良になってもらって、代わりに俺が走っちゃうっていうのは、どうよ」

②優希は開いた口が塞がらなかった。暗に誠のことを言っているのが、見え見えだった。斜め下を見ると、誠の握られたこぶしには、筋がくっきり浮いていた。

すると、あろうことか瞳子が、

「それ、案外いいかも」

ぽろりとつぶやいた。そのつぶやきを耳ざとくキャッチした流星は、

「だろ？　たまにはいいこと言うだろ？　他に意見もないし、もう『心ひとつに必勝』で決まりでいいじゃん」

［　I　］言った。

優希は、③「透明なルール」の見えないロープに、クラス全体がうねうねとからめとられているような気がした。

思わずつばを飲み込んだ。

「いや、まだ、意見が出るかも知れません」

優希が［　Ⅱ　］、流れにストップをかける。

「ちっ。俺ら野球部はさー。優勝しないと、早朝ランニングが待ってるんだよ。それだけは、マジ勘弁（かんべん）」

流星の小言に、

④「それ、変だよ」

優希の口から、［　Ⅲ　］本音がこぼれた。誠が横でハッとするのが分かった。

「はあ？」

流星は［　Ⅳ　］不機嫌（ふきげん）な顔になって、

「変だろうが何だろうが、部の伝統は、簡単には変えられないんだよ」

ぶっきらぼうに投げ返した。教室がざわつきだした。

優希は我に返り、

「ごめんなさい。みなさん、静かにしてください」

と、声を張り上げた。

「スローガンの話し合いを続けましょう。他に意見がある人はいませんか」

ざわついていた教室が、だんだん静かになった。

「意見が出ないようなので、わたしからも意見を言ってもいいですか」

何人かがうなずいてくれた。

優希はつばを飲み込もうとしたが、口の中はからからで喉が引きつれた。そっと下を向いて、左の手のひらに目を落とした。ボールペンで書いた文字をあらためる。

よし、言うぞ。《　A　》

「『心ひとつに必勝』。たしかにそれは、体育祭はクラスで得点を競う面もあるから、みんなで優勝を目指すというのも、ありだと思います」

ここで区切った。流星や瞳子たちが、でしょ、というようにうなずいている。《　B　》

「でも、」

喉がむずがゆくなって、咳が出てしまった。喉もとを手で押さえつけた。誠が上体を少し倒して、優希の横顔に視線を送った。

《　C　》

「でも、わたしのスローガンの案は、『勝つより楽しむ』です」

ひとまずここまで言うと、うなじがカッと汗ばんだ。

「どういうこと？」

瞳子が⑤間髪を入れずに、尋ねた。

「わたしが考えたのは、全員リレー。勝ちを目指すのではなく、全員で楽しんじゃうというのはどうでしょうか。三組のクラスカラーは黄色だから、黄色をモチーフにそれぞれ仮装して、楽しんで走るのは、どうでしょう」

優希が一気に話し終えると、クラスがとたんに沸いた。《　D　》

「え、なんか楽しそうじゃん」

「そういうのって、今までなかったよね」
「面白そうかも」
⑥どんよりしていた空気がいっぺんに浮上した。わいわいと軽やかな話し声が飛び交った。そんなとき、
「はい」
瞳子があえて手を挙げた。優希の肩が緊張する。
「牧さん、どうぞ」
「それってルール違反にならないの？　ぶっちゃけ、そんなことしたら、北側先生に三組がにらまれちゃうよ。優希は、あ、佐々木さんは内申がいいから、気にしないのかも知れないけど」
瞳子の言葉は優希の心をひっかいた。内申がどうとか、考えもしなかった。
あの瞳子が自分に対して、嫉妬めいた気持ちを持っていたなんて。
それでも、瞳子は瞳子で、素直な気持ちを隠さずにぶつけてくれる。ありがたいことだと思う。《　E　》
『勝つより楽しむ』のアイディアでいったん浮上した空気が、幕が下りるみたいに沈んでいった。
「牧さん、意見をありがとうございます。他に意見はありませんか？」
沈黙が流れた。
優希はひとつ咳払いをしてから、口を開いた。
「椿中では、この春からブラック校則がなくなりました。だけど現状は、それほど変わっていません。それは、目に見えるルールが無くなっても、透明なルール、目に見えないルールに、わたしたちが縛られているからなんじゃないかと思いました」

「透明なルール？」
瞳子が怪訝そうに眉をひそめた。
みんなの目がまっすぐ自分に注がれている。足を踏ん張っていないと、緊張で倒れそうだ。
「例えば、⑦同調圧力。自由な髪型にして目立ちたくない、とか、先輩ににらまれるんじゃないか、とか……」
声が震えてしまう。
「あるある」
まどかがつぶやいた。
「あと、自分が自分に作ってしまう、透明なルール」
優希が続けると、
「何だよそれ」
流星がつっこんだ。
「こういう場でも、反対意見を言ったら、嫌われるんじゃないかって勝手に決めて、それなら黙っておこうって、何も言わない。でも本当は、反対意見を言ったって、嫌われたりしないのに」
優希の言葉に、うなずく人が何人かいた。たとえ数人であっても、心を強くしてくれた。
「わたしは、米倉さんが言ったみたいに、ここには三十五通りの心があって、それぞれ思っていることや、意見があると思うんです。だから――」
一度言葉が切れた。

「だからわたしは、どんな意見であっても、みんなで、自由に、言い合いたい」

教室が、静まりかえった。

優希には、自分の心臓の音しか聞こえなかった。こんなに激しく脈打っているのに、血が届いていかないのか、指先は氷みたいに冷たくなっていく。

しばらくして、

「はい」

楓が手を挙げた。

「庄司さん、お願いします」

優希の声がうわずった。

「うちは、あ、わたしは、佐々木さんの仮装リレー案が、面白そうだなって思いました。正直、全員リレーで足引っ張っちゃったらどうしようって、不安でしょうがなかった。うちも、勝つことより楽しみたい」

楓は一気に言った。頬が少し紅潮している。

「はい」

手を挙げた男子が、

「僕も、優勝狙いより、楽しむ方がいいとは思うけれど、仮装まではやりたくない。応援なら頑張るけど」

と言うと、誠が「同感」と小声でつぶやいた。

「はい。全員リレーじゃなくて、出たい人だけで走ればいいんじゃないですか?」

「はーい。そんなことをしたら、他のクラスとフェアじゃなくなります」
「はい。他のクラスとも、仮装とかパフォーマンスで闘うとか」
「はい。今から種目を変えるなんて、出来るのでしょうか」
今までのロングホームルームではありえないくらい、次々と意見が続いた。
冷たかった優希の指先が、じんじんしてきた。
突然前のドアがガラリと開いたのは、そのときだった。
一瞬で空気が固まった。教室の様子をのぞきにきたのか、北側先生が立ちはだかっていた。
「お前ら、仮装だとかなんだとか、体育祭をなんだと思ってる」
凄みのある声に、空気がビリっと震えた。
「外で頭を冷やしてこい。全員、グラウンド十周だ！」
北側先生は吠えてしまった。校長先生もかわって、目を光らせていた校則も減り、⑧ずっとこらえていたものが、堰を切ってあふれ出すみたいに。
北側先生は、去年よく言っていた。
校則があるからこそ、お前ら生徒たちは、安心して学校生活が送れるんだぞ、と。
どのくらい前のことか分からないが、市内の中学校はひどく荒れていて、一部の不良グループが窓ガラスを割ったり、授業を妨害したりしていたらしい。
それを押さえつけ、厳しい校則で取り締まることで、学校を落ち着かせたという自負が、北側先生にはあるようだ。

「おい、早くしろ」

北側先生が追い打ちをかけた。

でも、誰も立ち上がらなかった。流星たち野球部員でさえ、身を硬くしたまま、じっとしている。

「北側先生、それは体罰になります。そういう時代は、もう終わりました」

後方から透き通った声が飛んできた。

後ろからクラスを見守っていた辛島先生が、背筋をピンと張って歩み出てきた。辛島先生は教壇に上がると、優希や誠にいったん自分の席に戻るようにうながした。

（佐藤いつ子『透明なルール』による）

問1　――線①「【　】のように」とあるが、これが「押し黙っ」ている様子を表すたとえとなるように、【　】に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　岩　　ロ　貝　　ハ　亀　　ニ　壺

問2　――線②「優希は開いた口が塞がらなかった」とあるが、それはなぜか。その理由を三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問3 Ⅰ ～ Ⅳ に当てはまる言葉として適当なものを、次の中からそれぞれ選んで記号で答えなさい（同じ記号は二度使えない）。

イ 思わず　ロ おそらく　ハ つべこべ

ニ とたんに　ホ かろうじて　ヘ あいかわらず　ト たたみかけるように

問4 ――線③「『透明なルール』の見えないロープに、クラス全体がうねうねとからめとられている」とは、クラスがどのような様子になっていることを表現しているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ クラス全体が話し合わなければいけない議題に対して関心を失っている様子。

ロ クラス全体が新しいアイディアを生み出す独創性が無くなっていっている様子。

ハ クラス全体が体育祭に対してどうせ勝てないと否定的になってしまっている様子。

ニ クラス全体が周りの空気を気にして自分の言いたいことを言えなくなっている様子。

問5 ――線④「それ、変だよ」の「それ」はどのようなことを指しているか。その内容を二十字以上三十字以内で説明しなさい。

問6　次の一文は文章中の《　A　》～《　E　》のどこに入れるのが適当か。記号で答えなさい。

・頑張れ、とエールを送ってくれている。

問7　――線⑤「間髪を入れずに」とは、どのような意味か。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　少しの時間も置かずに　　ロ　私情をさし挟(はさ)まずに　　ハ　何の遠慮(えんりょ)もせずに　　ニ　疑問を隠さずに

問8　――線⑥「どんよりしていた空気」とあるが、どのような雰囲気(ふんいき)か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　「優希」の一言を聞いて「流星」がふてくされてしまったので、「流星」とどう接したらいいかわからず困っている雰囲気。

ロ　「優希」が話し合いをうまく進めることができず、体育祭のスローガンがなかなか決まらないことにいらいらしている雰囲気。

ハ　「流星」が提案したスローガンに強く同意するわけではないが、反論することもできずに何となく押しきられている雰囲気。

ニ　「流星」の様々な提案に「瞳子」がせっかく賛同しているのに、「優希」がそれを取り上げないのでうんざりしている雰囲気。

問9　――線⑦「同調圧力」を感じる状況（じょうきょう）の例として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　自分の好きな芸能人が持っていたので、好みではないが同じアクセサリーを買った。

ロ　成績の良い友人がテスト前は勉強しないと話していたので、自分も勉強しなかった。

ハ　先生に部活中に「そんなにやる気がないなら帰れ」と言われたので、すぐに帰った。

ニ　本当は家に早く帰りたかったが、友人たちが寄り道をするから自分も寄り道をした。

問10　――線⑧「ずっとこらえていたもの」とは何か。それを説明した次の文の【　】に当てはまる表現を、文章中から二十五字以上三十字以内でぬき出し、最初と最後の三字を答えなさい。

・北側先生には【　　】があるのに、学校全体の方向性が変わってしまって、不満があったが我慢（がまん）していたということ。

問11　この文章を通して読み取れる、登場人物の様子を説明したものとして適当なものを、次の中から二つ選んで記号で答えなさい。

イ　ロングホームルームで進行を任された「優希」は、体育祭のスローガンを決めること以上に、三組が誰もが意見を言い合えるようなクラスになってほしいと考え、また、自分の意見もよく整理して臨(のぞ)んでいる。

ロ　「優希」をさりげなく気遣(きづか)える優(やさ)しい性格の「誠」は、クラスで積極的に発言はしなくても、体育祭の全員リレーで絶対勝ちたいと考えており、そのためにクラスがより団結できるよう応援しようとしている。

ハ　クラスで自分の意見を臆(おく)せずに発言する「流星」は、全員リレーで優勝することで、バラバラだったクラスの心をもう一度一つにしたいと考え、体育祭では手段を選ばずに何が何でも優勝したいと思っている。

ニ　成績が良い「優希」に嫉妬している「瞳子」は、クラス内で「優希」の提案したことが受け入れられるのは気に食わないが、全員リレーで仮装するという提案が面白いものであったため迷いが生じている。

ホ　走ることに不安を抱えていた「楓」は、「優希」の発案である仮装リレーに興味をしめしており、リレーで勝つことよりもクラスで楽しむことを優先させたいという気持ちをみんなの前で明らかにしている。

（問題は次のページに続く）

二

次の文章を読んで、後の1～13の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

芥川賞作家で、大学で教鞭をとる奥泉光の著作に『桑潟幸一准教授の①スタイリッシュな生活』という、半分ふざけたミステリー小説がある。私にとっては大変すばらしい小説で、シリーズ3冊のすべてを20回ぐらい読んでいる。今も寝る前に読んでいるので、この回数は現在も更新中である。千葉の果ての「たらちね国際大学」に勤めるクワコーこと桑潟幸一准教授が主人公で、ほとんど無能な大学教師という設定だ。専門は日本文学で、②太宰治に関する短くて内容のない論文を2本書いているものの、黒板に「太宰治」と書こうとしたら、「宰」という漢字が思い出せなくて書けなかったという。

クワコーの給与は毎月手取りで11万350円だ。アパートの家賃が7万2000円で、光熱費水道代インターネット代などを含めると、ざっと8万5000円。残りは2万5000円ぐらいしかなく、これで食費から被服費、交際費などすべてを賄わなくてはならない。つまり、クワコーはとても貧乏なのだ。

そんなクワコーが歩いてアパートまで帰る途中、道の脇に野菜の無人販売所があった。販売台の上に並んだ野菜を見ると、さきほど寄ったスーパーより安い。クワコーは時間をかけて大根を1本選び出すと、お金を箱に入れた。

イ　箱の中には何枚か硬貨が入っているだろうが、その中の1枚はクワコーが入れたものだ、という証拠はないのだ。

ロ　しかし、お金を入れたときに、周りに人はいなかったので、クワコーが盗んでいないという証拠はない。

ハ　その一方で、クワコーは絶対に自分が盗みなどしてはいないと言える、確かな証拠があったのだ。

ニ　その目が「ちゃんとカネを払ったんだろうね」と疑う目に思えて、クワコーはいたく傷ついた。

ホ　クワコーが歩き出すと、農家の人らしい老女が出てきて、クワコーを見た。

クワコーは口惜しさに震えた。そして、これからは、お金に名前を書いておこうと思った。

次の日、クワコーが野菜の無人販売所まで歩いてくると、昨日はなかった貼り紙があって、「ヌスムナ！」と汚い字で書いてある。これは自分に向かって書かれたメッセージに他ならないと思えば、クワコーは腹の底から③憤怒の溶岩が溢れ出そうになった。

すべての生物はＤＮＡ（デオキシリボ核酸）という化合物を持っており、そこに遺伝情報が蓄えられている。ＤＮＡは、ＲＮＡ（リボ核酸）やタンパク質に比べて、いろいろと使い勝手がよいので、人間が実験をするときにも広く使われている。そういうときには、ＤＮＡを、現在生きている生物の細胞から取り出すことがふつうである。また、ＤＮＡを人工的に合成して使うことも、よくある。しかし、まれには過去の生物から、つまり化石から取り出すこともある。この、化石から取り出したＤＮＡのことを、古代ＤＮＡという（ちなみに、広い意味では、剝製やミイラも化石に含まれる）。

古代ＤＮＡを扱うときには、現生生物のＤＮＡを扱うときにはない悩みがある。それが、④さきほどのクワコーの悩みだ。

たとえば、クワコーの財布の中に入っているお金は、クワコーのお金だと考えて問題はないだろう。勝手にクワコーの財布を開けて、そこに自分のお金を仕舞っておく人は、まずいないからだ。

しかし、無人販売所の箱の中のお金は、そうではない。たしかにクワコーが入れた硬貨も入っているだろうが、他の人が入れた硬貨もたくさん入っている。それでは、農家の老女に疑われたときは、どうするか。どうやって、クワコーが入れた硬貨を特定するか。クワコーなら、硬貨に名前を書いておくという⑤奥の【　　】があるようだが。

⑥現生生物のＤＮＡを取り出すことは、クワコーの財布からクワコーの硬貨を取り出すようなものだ。現生生物の体の中のＤＮＡは、ほとんどがその生物自身のＤＮＡだからだ。一方、⑦化石から古代ＤＮＡを取り出すことは、無人販売所の箱の中からクワコーが入れたお金を取り出すことに似ている。硬貨に名前が書いていなければ、クワコーが入れた硬貨を特定することは非常に難しい。しかし、そこをクリアしなければ、古代ＤＮＡの研究は成り立たない。

化石は長い年月にわたって、地中などに放置されていることがふつうである。そのあいだには、菌類や細菌などが入り込んで、増殖することもあるだろう。そうすると、化石の中に、それらのＤＮＡが残ることになる。また、化石が発掘された後は、いろいろと人間に扱われるため、人間のＤＮＡが化石に混入することも多い。

さらにいえば、ＤＮＡは至るところに存在している。生物は生きているだけで、垢や汗や吐息などによって、⑧のべつまくなしにＤＮＡを撒き散らしている。だから、研究所の建物の中にも外にも、地中にも空気中にも、ＤＮＡは存在している。何しろ地球は生命に満ち溢れた星なので、そこらじゅうＤＮＡだらけなのだ。それらが何らかの形で化石に混入する可能性は非常に高い。つまり化石の中には、いろいろな生物のＤＮＡが混在しているということだ。したがって、化石の中からＤＮＡを取り出した場合、それがもともとの生物に由来するＤＮＡである保証はない。後から混入してきたＤＮＡかもしれないのである。

過去から現在まで、すべての古代ＤＮＡの研究における最大の問題は、この真偽性だ。古代ＤＮＡと聞けば、すぐに真偽性に⑨思いを致すこと。それは、古代ＤＮＡを研究する人はもちろんだが、古代ＤＮＡの研究とは関係のない人が、テレビやインターネットなどで古代ＤＮＡの記事に接するときにも必要な態度だろう。そして、この真偽性の問題は、古代ＤＮＡだけでなく、化石タンパク質などの他の生体分子についても、基本的には当て嵌まる話である。

現在（２０２０年代）の日本でも、化石から生体分子を取り出しただけで、あたかもそれが、化石になった生物に由来するものであ

るかのような報道がなされることがある。さすがに学術雑誌の論文にはならないようだが、テレビやインターネットには「恐竜の化石から××を発見！」みたいな無責任な記事が今でも見られる。

もちろん、恐竜の化石の中に恐竜の生体分子が残っている可能性はゼロではない。しかし、その可能性を検討するためには慎重な考察が必須である。実際、そういう研究も行われているが、一方で⑩無人販売所の箱の中から適当に硬貨を1枚選び出して、これが私の入れた硬貨だとあつかましく主張するようなことも、また行われているのである。

古代ＤＮＡの研究は、まさに玉石混淆である。そして、玉か石かを見分ける尺度は、真偽性だ。それでは、いつも真偽性を頭の片隅に置いておきながら、これから古代ＤＮＡについて考えていくことにしよう。

（中略）

古代ＤＮＡの研究は、１９８４年に発表されたクアッガというウマの古代ＤＮＡの解析をもってスタートとするのが一般的である。それについては後述するが、それ以前にも化石の中のＤＮＡやタンパク質についての研究は行われていた。ワトソンとクリックによるＤＮＡの二重らせん構造についての有名な論文が発表されたのは１９５３年だが、タンパク質やその構成要素であるアミノ酸についての研究には、それより古い研究もいくつかある。

A 、１９４４年にアメリカのマサチューセッツ工科大学のリチャード・ベアは、マンモスの牙にコラーゲンというタンパク質の線維が残っていることを、Ｘ線回折という物理的な方法を使って確認している。

B 、１９５４年から56年にかけて、アメリカのカーネギー地球物理研究所のフィリップ・アベルソンが、いくつかの化石からアミノ酸を検出した。それらの化石の中には、中新世（２３００万～５３０万年前）の二枚貝や巻貝の貝殻、ジュラ紀（２億１００万～

1億4500万年前）のステゴサウルスという恐竜の骨、そしてもっとも古いものとしてはデボン紀（4億1900万〜3億5900万年前）のディニクティスという魚の骨などが含まれていた。

このような、化石からアミノ酸を検出する研究は、1960〜70年代には世界中のさまざまな科学者によって行われた。中には、カンブリア紀（5億3900万〜4億8500万年前）の三葉虫の化石からアミノ酸を検出したという、非常に古い化石からの報告まであった。この報告をしたのは、マイケル・ブリッグスというイギリス生まれの生化学者で、当時はニュージーランドのヴィクトリア大学に在籍（ざいせき）していた。彼（かれ）は、のちにオーストラリアのディーキン大学の教授になるのだが、そこで研究データの捏造（ねつぞう）が発覚し、大学を辞職することになる。［C］、三葉虫からアミノ酸を検出した論文は、⑪おそらく捏造ではないだろう。この研究が行われたのは、データの捏造が発覚するより20年以上も前のことだし、こういう研究はあまり名誉（めいよ）やお金に関係なさそうだからだ（まあ、本当のところはわからないけれど）。

しかし、たとえデータが捏造でなかったとしても、化石からアミノ酸を検出したこれらの研究には、大きな問題がある。それは真偽性の問題だ。

生物の体の中で、アミノ酸の存在の仕方は2通りある。一つは、アミノ酸同士が繋（つな）がってタンパク質の一部となっているアミノ酸で、もう一つは、一つずつバラバラになっているアミノ酸だ。後者は遊離（ゆうり）アミノ酸といって、細胞や血液の中にたくさん存在し、生命活動に重要な役目を果たしている。

もしも化石中のアミノ酸が繋がっていて、タンパク質の状態で見つかれば、そのアミノ酸配列から、ある程度は真偽を判定することができる。たとえば、ヒトとチンパンジーでは、同じ種類のタンパク質であっても、アミノ酸配列が少し違（ちが）う場合が多い。したがっ

て、アミノ酸配列がわかれば、そのタンパク質がヒトのものかチンパンジーのものかが判定できることになる。

つまり、チンパンジーの化石からヒトのタンパク質が検出されれば、それは［D］から［E］に混入したものと解釈（かいしゃく）されるし、チンパンジーの化石からチンパンジーのタンパク質が検出されれば、それは［E］になった［F］そのものに由来する可能性が高くなる、というわけだ。

ただし、アミノ酸配列による真偽判定には限界がある。実際問題として、化石の中にタンパク質が完全な形で残っていることは、ほとんどない。残っていたとしても、それはタンパク質の一部分である。その、残っていた部分のアミノ酸配列がヒトとチンパンジーで違っていればよいが、もし共通であれば、そのタンパク質がヒトとチンパンジーのどちらに由来するのかを決めることができない。

さらに、細菌などからの混入も考えれば、事情はもっと複雑になる。また、検出されたアミノ酸配列が短ければ、そもそもタンパク質の種類さえわからないかもしれない。

以上のように、化石中のアミノ酸が繋がった状態で見つかっても、なかなか真偽判定は難しい。ましてや、バラバラの遊離アミノ酸の状態で見つかった場合は、真偽判定をすることは不可能だろう。

（更科功（さらしないさお）『化石に眠（ねむ）るＤＮＡ』による）

問1　――線①「スタイリッシュな」を言いかえた言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　上品な　　ロ　理想的な　　ハ　完成された　　ニ　洗練された

問2　――線②「太宰治」とあるが、次の中から、太宰治の作品でないものを、二つ選んで記号で答えなさい。

イ　『斜陽』　　ロ　『羅生門』　　ハ　『人間失格』　　ニ　『小僧の神様』　　ホ　『走れメロス』

問3　□で囲まれたイ～ホの文を、正しい順序に並べかえて記号で答えなさい。ただし、使わない文が一つある。

問4　――線③「憤怒の溶岩」とあるが、ここで用いられている表現技法として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　隠喩法　　ロ　擬人法　　ハ　直喩法　　ニ　倒置法

問5　――線④「さきほどのクワコーの悩み」とはどのような「悩み」のことか。それを説明した次の文の【　　】に当てはまる十五字の表現を、文章中からぬき出し、最初と最後の三字を答えなさい。

・【　　】方法がないため、盗んだと疑われた時に無実を証明できなかったこと。

問6　――線⑤「奥の【　　】」の【　　】に当てはまる漢字一字を、考えて答えなさい。

問7　――線⑥「現生生物のＤＮＡを取り出すことは、クワコーの財布からクワコーの硬貨を取り出すようなものだ」、⑦「化石から古代ＤＮＡを取り出すことは、無人販売所の箱の中からクワコーが入れたお金を取り出すことに似ている」とあるが、「現生生物のＤＮＡ」と「古代ＤＮＡ」について正しく説明したものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　「現生生物のＤＮＡ」を取り出すときは、その生物のＤＮＡである可能性が高いが、化石から「古代ＤＮＡ」を取り出そうとしても他の生物のＤＮＡが混入するので取り出すことはできない。

ロ　「現生生物のＤＮＡ」を取り出すときは、ほかの生物のＤＮＡが混入することを疑う必要はないが、化石から「古代ＤＮＡ」を取り出すときはその化石のＤＮＡだと特定することは難しい。

ハ　「現生生物のＤＮＡ」を取り出すときは、他の生物が持つＤＮＡの情報と重なる可能性を否定できないが、化石から「古代ＤＮＡ」を取り出すときはより一層の注意をはらうことが大切だ。

ニ　「現生生物のＤＮＡ」を取り出すときは、ＤＮＡの取り出しには最新の注意をはらわねばならないが、化石から「古代ＤＮＡ」を取り出すときには他の生物の混入を考える必要はない。

問8　――線⑧「のべつまくなしに」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　全方向に　　ロ　計画的に　　ハ　絶え間なく　　ニ　とてつもなく

問9　――線⑨「思いを致す」と同じ意味の言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　心を預ける　　ロ　心を向ける　　ハ　心を届ける　　ニ　心を残す

問10　――線⑩「無人販売所の箱の中から適当に硬貨を1枚選び出して、これが私の入れた硬貨だとあつかましく主張する」とはどのようなことをたとえているか。「恐竜」という言葉を用いて、四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問11　A ～ C に当てはまる言葉として適当なものを、次の中からそれぞれ選んで記号で答えなさい（同じ記号は二度使えない）。

イ　また　　ロ　しかし　　ハ　そこで　　ニ　たとえば　　ホ　なぜなら

問12　――線⑪「おそらく捏造ではないだろう」とあるが、そう考えられる理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　研究成果が世の中にとって役立つものであるかどうかは、それほど重要なことではないから。
ロ　研究を進め、成果を世に知らしめることの原動力は、必ずしも名誉やお金だけではないから。
ハ　論文が発表されたのは20年も前のことであり、今とは社会情勢が大きく異なっているから。
ニ　論文が世に認められたところで、そこから得られる利点が、それほど多くはなさそうだから。

問13　[D]～[F]に当てはまる言葉として適当なものを、次の中からそれぞれ選んで記号で答えなさい（二カ所ある[E]は同じ記号が入る）。

イ　ヒト　　ロ　内部　　ハ　タンパク質　　ニ　生物　　ホ　外部　　ヘ　細菌　　ト　化石

（問題は次のページに続く）

三　次の文章を読んで、後の1～7の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

Q. 初心者が覚えるべき型のようなものはありますか？

A. 平安時代中期に、藤原公任が『新撰髄脳』の中で、上の句で風景を表現し、下の句で自分の心を述べるのが歌の基本的な形であると説いています。と、①したり顔で語っていますが、そのことは、『作歌へのいざない』（三枝昂之・著　NHK出版／絶版）を読んで知りました。

（中略）

上の句 Ⅰ で風景（場面）を表現し、下の句 Ⅱ で自分の心（想い・感想）を述べる形の歌は、百人一首にも多く見られます。また、このような心情と景物を対応させる構造を国文学者の鈴木日出男は、「心物対応構造」と名付けました。

ちなみに私は勝手に「三句切れ景・心セット」と名付けています。

秋の田の穂の上に霧らふ朝霞　いつへの方に我が恋止まむ

磐之媛命（磐姫）『万葉集』巻二

秋の田の穂の上に霧らふ朝霞　（風景）

＋

いつへの方に我が恋止まむ　（想い）

上の句は、「秋の稲穂の上に朝霧が立ちこめている」という風景を表現し、下の句では、「私の恋心はどこへ行ってしまうのだろうか」と不安な気持ちを吐露しています。

この歌が生まれた背景を想像してみます。田んぼの上にたちこめている朝霧を見た姫が、「あ、この先が見えない感じ、私の恋と一緒だ！」と思った。あるいは、逆に、先が見えない恋に悩みながら朝の散歩をしていた時、霧の立ちこめている田んぼを見て、「あ、いまの私の心、まさにこの状態！」と思った。このどちらかでしょう。

同じ「三句切れ景・心セット」の歌をご紹介します。

マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや　寺山修司『空には本』

マッチ擦るつかのま海に霧ふかし　（風景）

＋

身捨つるほどの祖国はありや　（想い）

もしかしたら、②寺山修司の頭の中には、先ほどの磐姫の歌があったのかもしれません。

上の句は、夜の港でマッチを擦ったら、霧にたちこめる海が見えた。まるで石原裕次郎の映画のワンシーンのようです。下の句は、「命を捨ててまで守るべき祖国はあるのだろうか、いやないだろう」というモノローグです。この歌は、戦後の青年の［Ⅲ］気持ちを見事に代弁しているとして高く評価されています。馬場あき子先生は、寺山短歌の人気の秘密は、この歌のような三句切れ上下二句仕立ての律の明快さにあると看破しました。＊『短歌への招待』（馬場あき子・著　読売新聞社／絶版）

そして、この歌は、

一本のマッチをすれば湖は霧　　富澤赤黄男『天の狼』

めつむれば祖国は蒼き海の上　　同

からの盗作であることも知られています。その行為に対する賛否はここでは置いておくとして、寺山修司は、俳句出身であったことと、短歌の基本的な型を知っていたからこそ、③そういった芸当も可能となったものと思われます。もちろん寺山修司には、オリジナルな発想の素晴らしい作品もたくさんありますので、誤解のないようお願いいたします。

ちなみに、寺山は自作の俳句に七・七を付けて、短歌として甦らせたものがいくつもあります。

みなさんも上の句、下の句のどちらかだけでも浮かんだときは、メモをとるといいでしょう。別の時に作った上の句と下の句を繋げてみたら、思わぬいい歌ができたなんてこともよくあるのです。

ちなみに、次の名歌も「三句切れ景・心セット」です。

④ヒヤシンス薄紫に咲きにけりはじめて心顫ひそめし日　　北原白秋『桐の花』

私は、定期的に小学校で短歌の特別授業を行っているのですが、⑤この型を知った途端、すらすら詠めるようになる子が多いです。また、大人でスランプに陥った人も、この型に沿ってつくることにより、スランプを脱出した人もたくさん見てきました。

藤原公任先生、三枝昂之先生に感謝です。

（笹公人『ＮＨＫ短歌　シン・短歌入門』による）

問1　――線①「したり顔」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　楽しそうな様子　　ロ　得意そうな様子　　ハ　偉そうな様子　　ニ　賢そうな様子

問2　［Ⅰ］、［Ⅱ］に当てはまる数字の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　［Ⅰ］＝五・七　［Ⅱ］＝五・五・五

ロ　［Ⅰ］＝五・七　［Ⅱ］＝五・七・七

ハ　［Ⅰ］＝五・七・五　［Ⅱ］＝五・五

ニ　［Ⅰ］＝五・七・五　［Ⅱ］＝七・七

問3　――線②「寺山修司の頭の中には、先ほどの磐姫の歌があった」とはどういうことか。それを説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　「磐姫の歌」の構造を意識したのではないかということ。
ロ　「磐姫の歌」の言葉を引用したのではないかということ。
ハ　「磐姫の歌」の世界観を盗作（とうさく）したのではないかということ。
ニ　「磐姫の歌」の作者の思いを引継（ひきつ）いだのではないかということ。

問4　Ⅲ　に当てはまる言葉を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　あどけない　　ロ　ぎこちない　　ハ　きどらない　　ニ　やるせない

問5　――線③「そういった芸当」とはどのようなことを指しているか。その内容として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　二つの俳句に共通している主題を借用して、一つの歌にまとめあげたということ。
ロ　昔の人の俳句の表現をそっくりそのまま使って、歌を作り上げているということ。
ハ　二つの俳句から着想を得た上で、基本的な短歌の形式にのっとった歌を作ったこと。
ニ　昔の人の俳句によまれている世界観を利用して、自分の心情を表現したということ。

問6　――線④「ヒヤシンス」の歌はいつの季節の歌か。漢字一字で答えなさい。

問7　――線⑤「この型」とは具体的にどのような型のことか。それを説明した次の文の【　　】に当てはまる表現を、文章中の言葉を用いて、二十五字以上三十字以内で答えなさい。

・【　　】短歌の型。

四

次の文の――線のひかれたカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

① 私の姉は大学で医学を修めている。

② 首相のショシン表明演説をきく。

③ マラソンで新記録をジュリツした。

本校の許可なく、掲載内容の一部およびすべてを複製、転載または配布、印刷するなど、第三者の利用に供することを禁止致します。